**台湾工作機械情報**

**2022年1月15日**

* **工作機械工業会より産業白書発表**

**スマート製造の未来をリードする6つの戦略**

台湾工作機械とパーツ工業会が10月6日、台北のWホテルで記者会見を開き「2021年工作機械工業白書」を発表した。「台湾のスマート・マニュファクチャリングが未来をリードする」をテーマに、白書の政策を通して工作機械エコシステムの完備、加速する高付加価値化への発展が期待できそうだ。それらは台湾の製造業の持続的成長ともなり、国内の主要製造業の発展に対する工作機械業界の貢献向上にも役立つだろう。

台湾は世界の工作機械輸出国トップ5で、生産国トップ7の一角を占め、国の製造業発展においても重要な柱となっている。2020年第１シーズンから第２シーズンはコロナで世界経済が酷く影響されたが、下半期は財政補助や各国のワクチンの登場により緩やかに回復し始め世界経済も徐々に安定、2021年の工作機械の需要は目に見えて成長した。2021年の台湾工作機械輸出総額は2020年と比較して25％成長した。世界的に製造業の回復の勢いがこのまま続けば、台湾の工作機械輸出は2022年に30％にまで成長する余地があり2018-2019年代の水準に戻るとも予想されている。

白書のなかでは工作機械業界チェーンの競争力に関する分析に加え、自動車、半導体、航空宇宙、エネルギー機器産業など、異なる業界の動向についても触れている。これにより各業界が工作機械業界の役割をより理解し、業界間での協力を促進、業界の細分化から統合に移行できるよう願っている。そして何より政府が業界の声に耳を傾け業界やメーカーが政府と協力しつつ前進できればと願う。

当協会は産業エネルギーと環境全般の発展を考慮して政府に6つの策略、すなわち「技術の研究開発と製品・サービスの革新」「国際市場の拡大」「国内市場の拡大」「事業運営能力の向上」「産業人材の育成」と「その他の分野における政策提言」を提案した。技術開発と製品・サービスイノベーションの面では、まず産業の基盤となる技術の研究開発を強化し、それに応じて中長期の工業の基礎となる技術研究開発仕様を作成すること、鍵となる技術知識を深めることで産業の高度化と変革、スマート化のニーズに対応していきたい。6つの戦略を相互に関連づけることで、政府が業界の継続的な発展と国内の製造環境の最適化を支援し、世界の工作機械業界における台湾の影響力が強化されることを期待する。

2021年版工作機械産業白書では、2030年を里程標に業界と政府のリソースをかけあわせることで台湾の工作機械生産高を世界シェア8％に拡大、工作機械メーカーの付加価値率を30～32％に高めたい。「生産価値の向上」、「価値の創造」、「競争の強化」を台湾産業の世界に向けた競争力として備えることが期待される。

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌，2021，NO.135 頁52-54）

* **工具機械工業会、SaaS型マイクロサービスデータ交換モデルを推進**

**業界のデジタル変革をリードする**

工作機械とパーツ工業会が9月17日、リモートによる「SaaSマイクロサービス発表会」を開催した。マイクロサービスのシナリオデモではAPIによるデータ交換の応用を紹介し、生産ラインで最も多い問題箇所を浮き彫りにした。「設備の故障診断」と「生産の最適化」の2つのユースケースを紹介し、異なるソフトウェアや異なるメーカー間でのスムーズなデータ交換ができることをプレゼンした。

マイクロサービスとはデジタルトランスフォーメーションの細分化だ。見どころは敏速かつ柔軟性ある拡張機能だ。それは1つのアプリケーション開発で、ひとつのアプリケーションが分割して各サービス間において独立して作動し、APIアプリケーションインターフェースを用いて相互に通信することができる。

工作機械工業会技術委員会の招集者である陳伯佳氏は次のように語った。「ネットワークや検出機能を備えた新しい工作機械がどんどん市場に出てきている。部品、システム、サービスをAPIで連携させ、新たなビジネスアプリケーションを生み出すことは工作機械業界におけるスマート製造やデジタルトランスフォーメーションの革新的な考え方でといえる。しかしながらこれら全ては安定したAPIフレームワークの上に構築されなければならない。」

今回の発表では「設備の故障診断」と「生産の最適化」といった2つのユースケースが紹介された。9社が生産ラインで発生し得る最も多い問題を実演、マイクロサービスを通じて様々なインテリジェントデジタルアプリケーションを短時間で連携させるなどマイクロサービスとAPIフレームワークの利点を存分に提示してみせた。それにより分解と組み合わせが容易になり、必要なコンテキストを素早く積み重ねたり、それぞれのプラットフォームを統合することでメーカー間のコミュニケーションが容易になる。中小企業のスマート製造とデジタル変換への迅速なアップグレードにも役立つはずだ。

当協会は本年3月に「スマートものづくりSaaSクラウドアライアンス」を設立して以来、PMC精密機械センター、ソフトウェアサービスプロバイダー、会員メーカーとともに、産業のデジタル変革とSaaSマイクロサービスの適用を促進するため、SaaSマイクロサービスにおけるデータ交換フォーマットの標準化を推進している。

従来は異なるベンダーのソフトウェア同士を連携させることはできなかったが、SaaSマイクロサービスのデータ交換フォーマットを標準化することで異なるソフトウェアや異なるベンダー間でうまくデータ交換ができるようになる。当協会の許文憲理事長は「これは通信業界にとって大したことではないかもしれないが、工作機械業界さらにはさらには製造業全体にとっては大きな第一歩だ。」と語った。

理事長の許文憲氏はさらにこう語った。「今後、自動車業界、航空宇宙業界、ソフトウェアサービス業界、ロボット業界、水・ハードウェア業界などと更に緊密に協力し、より多くのマイクロサービスやAPIデータ交換標準を生み出すことで台湾の工作機械産業の付加価値を高め、中小企業のスマート製造やデジタル変革の早期実現を支援していきたい。」

（出典：工作機械とパーツ雑誌，2021，NO.135 頁56-57）

* **2021年台湾工作機械の振り返り**

財政部関税総局資料処理所が提供するわが国各関税区の輸出報告資料による台湾工作機械とパーツ工業会(TMBA)の統計によると、2021年1月から8月までの台湾の工具輸出総額は17億5500万米ドルで昨年比22.2％増となった。そのうち金属切削工作機械の輸出は21％増の14億5400万米ドル、金属成形工作機械輸出は28.4％増の3億100万米ドルとなった。 前月との比較では2021年8月の工作機械輸出額は2021年7月と比較して17.1%増加しており、金属切削機の輸出額は20.8%増、金属成形機の輸出額は0.1%増と小幅な増加となった。

2021年1月から8月までの金属加工機の主な輸出品目は順にマシニングセンタ、輸出額は5億8500万米ドル、前年同期比20.4％増、2位は旋盤で輸出額は3億7200万米ドル、前年同期比25.5％増となった。 金属成形工作機の輸出は鍛壓、プレス成型の輸出額が2億4,200万米ドルで前年同期比32.5％増となった。

2021年1月から9月まで金属切削加工機の主な輸出品目は順にマシニングセンタで輸出額は前年同期比25.7％増の約6億6600万米ドル、2位は旋盤で輸出額は前年同期比28.2％増の約4億2千万米ドル、 金属成形工作機の輸出においては鍛壓、プレス成型工作機の輸出額が2億6400万米ドルで前年同期比28.6％増となった。

台湾工作機械とパーツ工業同業公会（TMBA）の統計によると、2021年1月から9月までの台湾工作機械の輸入額は7億4700万米ドルで前年同期比51.6％増となった。 そのうち、金属切削工具の輸入額は6億6200万米ドルで前年同期比55.8％増、金属成形工作機の輸入額は約8522万米ドルで同25.1％増だった。

機種別に見ると、金属切削工作機の輸入ランキングは第一位が放電、レーザー、超音波工作機で金額は3億4,200万ドル、全体の45.8％を占め、前年同期比73.2％と大幅増となった。主な輸入国は日本、シンガポール、中国（香港含む）だった。 第2位は旋盤で輸入総額の14.5％にあたる1億800万米ドル、前年比107.5％、主な輸入国は日本、中国、タイとなった。

輸入国（地域）別に見ると、2021年1月から9月までの台湾工作機械輸入国（地域）上位10カ国（地域）は順に日本、中国（香港含む）、シンガポール、ドイツ、スイス、タイ、韓国、イタリア、米国、イスラエルだった。 台湾の日本からの輸入は全体の52.8%を占め金額は3億9,400万米ドルで、昨年と比較して64.3%の増加した。 第２位は中国(香港含む)で輸入額は約1億1千万ドル、輸入額全体の14.7％を占め、昨年比55.9％増となった。第３位はシンガポール、輸入額は4,675万ドルで前年度より大幅に増加した。主要輸入先上位3カ国の主な輸入品は放射性物質、レーザー、超音波だった。

* **最近のニュース**

**台湾工作機械とパーツ工業会《2021工作機械産業白書》を公布**

【2021-10-06 経済日報】

台湾工作機械とパーツ工業会が本日６日《2021工作機械産業白書》を公布した。「台湾スマート製造の未来」をテーマに、白書の政策提言を通して、工作機械エコシステムの完成と加速する台湾工作機械産業の高付加価値化に向けた発展を期待できる。

白書のなかでは、工作機械産業チェーンの競合分析だけでなく自動車、半導体、航空宇宙、エネルギー機器などの異なるアプリケーション産業の動向についても言及している。工作機械業界の役割について理解を深めアライアンスを促進することで、業界が単体から統合へと移行することにより多くのビジネスチャンスを生み出すことだろう。

産業界全体のエネルギーと発展環境について当協会は政府に対し「技術の研究開発と製品・サービスの革新」、「国際市場の拡大」、「国内市場の拡大」、「事業運営能力の向上」、「産業界の人材育成」、「その他の分野の政策提言」という6つの戦略的提言を行った。

この6つの戦略は相互に関連し合っている。政府が国の製造環境の構築と最適化の面で引き続き業界をサポートし、台湾の工作機械業界が世界により貢献していくことを期待する。

**台湾の工作機械生産高は30％増、2030年には世界シェア8％目指す**

【2021-10-06 中央社】

工作機械工業会の許文憲理事長は「工作機械は半導体、グリーンエネルギー、3C産業など、あらゆる製造業の母体だ。」と語る。彼はこの白書のなかで次のように語った「主に三つのポイントがある。第一に工作機械業界は台湾への貢献度も付加価値も高いので政府に後ろ盾になってほしいということ、第二に工作機械の将来はどんぶり勘定ではなく、自動化、知能化、高付加価値化なども考慮しているということ、さらに今は高付加価値の発展段階、さらにAI化の時代としてコントローラやソフトウェアの仕様を統一しコストを下げることが肝要だということだ。」

　許文憲氏はまた、白書では2030年を里程碑に台湾の工作機械生産高が世界シェア8％、工作機械メーカーの付加価値率30～32％となることを目指していることも述べた。

今年の産業については「今年1〜8月の台湾工作機械産業の生産高は前年同期比25％増で、今年の目標成長率30％は『問題ない』と推定する」とも語った。

工業会は次のように言う。「台湾は世界の工作機械輸出トップ5、生産トップ7に入る市場だ。今年台湾の工作機械輸出総額は27億米ドルに達すると推定され、昨年と比較して少なくとも25％増加する見込みだ。来年の台湾工作機械輸出成長幅は30％に達し、2018年から2019年のレベルにまで回復できると予想する。」

**機械業界の逆風　マスクの暗闇から抜け出す**

【2021-10-13 経済日報】

台湾機械設備は今年前３シーズンの輸出が最高値を更新し続けたが、台湾機械工業協会の魏燦文会長は昨日ひとつ警告を発した。「中国は最近電力消費のプラグを抜いてエネルギー消費を二重に制御したため原物量が急騰、主要部品のリードタイムも延長し第4シーズンの機械設備の生産と輸出に影響を及ぼす恐れがある。」

　魏燦文氏は次のように予想する。「第4シーズンの機械・設備輸出は第3シーズンに比べ若干減少、年間輸出増加率は25％程度となりそうだ。機械設備の輸出は前３シーズン比3.2％増、前年同期比33.1％増となるだろう。」

機械工業会が発表した第1〜3シーズンの機械・設備輸出額は前年同期比29.2％増となった。 機械設備輸出は9ヶ月連続で2桁の伸びを示しており、台湾の機械産業の着実な回復を表している。

台湾9月の機械輸出は前年同月比28.1％増、新台湾ドル換算で20.8％増となった。 これは昨年9月から13カ月連続で前年同月比プラスとなり、輸出は引き続き活況が続いているが8月に比べると輸出額は月9.3％の減少となっている。

魏燦文氏は次のように言う。「今年8月の輸出額、伸び率はともに米中貿易戦以来の新記録を作った後、9月の輸出はわずかに減少した。また機械輸出は、新台湾ドルの上昇、原材料の高騰、輸送コストの高騰という3つの不利な要因の影響を受けたため輸出への影響具合は観察中だ。」

**工業生産指数が過去最高を記録**

【2021-10-26 経済日報】

経済部統計局が昨日９月の工業生産指数が138.97で年率12.2％、9月の製造業生産指数は141.01で年率12.7％と発表した。両指数とも単月としては過去最高、「20ヶ月連続黒字」を更新した。また統計局の事前報告によると、台湾の輸出売上高が年末に向けて好調に推移する傾向にあり今年は過去最高を更新する見込みだ。

　今年第３シーズンの工業生産指数は136.44で前年同期比12.7％増、製造業生産指数は137.96で前年同期比14.1％増となった。 両指数とも1シーズンで過去最高を記録、9シーズン連続のプラス成長となった。

統計局は昨日、10月の製造業生産指数が15.6％増の17.4％となり、再び過去最高を更新すると推定していることを発表した。 2021年の工業生産が過去最高を記録する可能性があるかどうかについて、統計局の黃偉傑副局長は「今年1～9月の累積製造業生産指数がすでに132.24に達し、前年同期の平均117.15に比べ大幅にリードしている。１１、１２月は共に過去歴代最高記録を作るだろうと考えている」と述べた。

伝統産業では、世界経済の着実な回復とメーカーの設備投資意欲の高まりから機械伝導装置や工作機械の増産を促し続けている。9月の生産指数は132.37、年間24.5％の増加となった。

**台湾工作機械オーダーの飽和状態＋技術者の人材募集で従業員給与は5％アップ**

【2021-10-29 連合報】

台湾工作機械とパーツ工業会理事長の許文憲氏が本日次のように語った「世界の主な消費市場が徐々に回復していることもあり、台湾の工作機械産業は今年に入ってから景気回復のための注文が多く、今年1月から9月までの輸出は24.8％増となった。またIT企業人材募集に対し企業は政府の昇給政策に沿って第1波の昇給により人材確保に成功した。業界平均で5％の昇給があった。

欧米市場の回復が続くなか台湾の工作機械輸出は今年も好調を維持すると予想され、工作機械工業会は台湾の工作機械輸出額が来年も最大30％成長すると見込んでいる。

許文憲氏は来年の景気も引き続き見込みがあると考えている。特に米国では景気刺激策の多様化が投資需要を押し上げた。このほか欧州市場は今年コロナが沈静化し需要も徐々に回復しつつある。来年もサプライチェーンの再編に伴い工作機械の需要が増加するだろうと予想される。

許文憲氏は「台湾の工作機械業界は受注が飽和状態で人材も必要になってきているため、政府の賃上げ政策に合わせて来年は業界に先駆けて従業員の賃上げに取り組みたい。平均賃上げ率は2年連続で今年の5％を上回る見込みだ」と述べた。

**機械業は政府の賃上げに対応　人材の最適化には給与が鍵**

【2021-11-02 経済日報】

台湾経済は今年に入って輸出が過去最高を記録するなど好調だ。先日も行政院が111年度軍公教の給与引き上げを承認し業界もこれに呼応している。台湾の3兆円産業でもある機械産業も国の経済を支える大きな柱の一つなので、政府の昇給政策に応じている。

台湾機械工業会の魏燦文会長によれば、台湾機械工業の売上高は今年1〜9月で約30％増加した。輸出売上は新台湾ドルで21％以上成長すると推測される。今年の業績は目覚しいものがあったが為替レートや原材料の変動で企業の収益性は低下してしまった。

しかしながら、機械業界は工作機械やゴム機械メーカーなどの従業員への待遇も考慮に入れ賃金の引き上げを決定した。

魏燦文氏は「長期的な経営を行うための究極の方法は会社の利益を従業員と共有する健全な給与調整システムを構築することだ」と語った。

毎年、営業利益を社員と共有できていれば会社が外部環境の変化や臨時で経営上の問題や課題に直面したとき、社員とも困難を共有し状況を理解することができる。こうして会社は経営のプレッシャーを軽減することができる。結局のところ企業の社会的責任は最終的にやはり従業員の仕事の安定が軸となる。

**機械設備生産額、来年は１割増しの見込み　トルコ工作機械からのMIT輸入トップ**

【2021-11-04 中央社】

工業技術研究院（ITRI）は本日、台湾の機械設備生産高が来年、年率10.2％の成長する見込みがあることを公表した。中国、米国、トルコが今年1～9月の輸出市場の上位3位を占め、台湾はトルコ工作機械輸入額第一位、業者も積極的にトルコ市場に拠点を置いていいと考えている。

台湾の工作機械製品輸出先トップ3について、工研院產科國際所のアナリストである陳佳盟氏は次のように述べた「今年1〜9月の累計輸出額は中国が約33.7％で1位、米国が約11.7％で2位、トルコが約9％で3位だった。輸出製品のトップ３にはマシニングセンタ、旋盤、鍛造・プレス工作機がある。

陳佳盟氏の分析によると、昨年トルコ工作機械の輸入国第１位は台湾で、工作機械輸入金額の24.6%を占めた。ドイツの15.8%、イタリアの12%を抑えてトップだった。今年1〜9月も台湾が１位で、前年同期比41.5%増となる見込みだ。

工研院は「トルコの自動車産業は、日本の自動車メーカーが現地工場で二交代制生産を続けるなどして疫病の影響下でも急速に回復している。またトルコは航空部品の世界的な生産拠点でもあり、航空業の回復は工作機械の需要増加にプラス効果となる」と指摘している。

**機械設備輸出連続１０ヶ月上昇**

【2021-11-10 経済日報】

台湾工作機械工業会が昨日、今年1-10月の機械設備輸出額が28.8%増加したと発表した。新台湾ドル換算では、21.4％増加で同期比では歴代新記録を更新し続けている。機械設備はすでに連続10ヶ月輸出が二桁増加で、台湾機械産業の景気回復は明らかだ。

台湾機械工業会の魏燦文理事長は10月の輸出は26.6%、新台湾ドル換算で21.5%増加したと発表した。昨年9月以降14ヵ月連続の増加で輸出は引続き好調だ。

今年1〜10月の機械輸出のトップ3は順に中国大陸が31.5%、米国が21.8%、そして日本が6.3%のシェアを占めた。

魏燦氏は次のように説明する「10月の機械輸出は上位10品目すべてが2桁以上の伸びとなった。電子機器輸出が28.1%増でトップ、検査・試験装置輸出が17%増で2位、工作機械輸出が53%増で3位だった。機械輸出は今年8月に米中貿易戦争以来の金額・伸び率ともに過去最高を記録した後、9月に若干減少したが10月に再び増加した。

**アジア生産性機構サミット　企業のスマートマニュファクチャリングを支援**

【2021-11-23 経済日報】

本日、財團法人中国生産性本部が主催する「2021アジア生產性機構スマートマニュファクチャリングシステムサミット」が開催された。また、企業のスマートマニュファクチャリングに向けたデジタル変革を支援するため、スマートマニュファクチャリングのエコシステムに関する覚書を締結した。

この度のメインテーマは「スマートマニュファクチャリングによる生産性の変革、枠を超えた競争力の創造」だ。

中国生産性本部はテクノロジーや情報サービスプロバイダーと協力し、製造業がITやIoT、デジタルツールの利用を強化し、製造現場を再構築できるよう、クロスプラットフォームで分散型のスマートマニュファクチャリングエコシステムを構築する。

中国生産性本部は次のように語った。「この度スマートマニュファクチャリング・エコロジー部のメンバーを招き、『サプライチェーンの強靭性を強化するスマートマニュファクチャリングシステム』『デジタルオペレーションで強化するスマートマネジメント』『常識を覆すスマートケミカルプラント』の3つの大きな領域でスマートマニュファクチャリングの最新トレンドとアプリケーションを紹介した。」

フォーラム中の交流とシェアを通じて、企業の変革とアップグレードを支援したり、競争力を強化するスマートマニュファクチャリングを実現するための実践的なソリューションと専門情報が提供された。同時に、総合的なエコシステムを通じて国際市場の資源を結びつけ、国際的なチャンネルを拡大し我が国の得意とする技術とサービスの交流をしていくことで産業クラスターの国際競争力を強化し続け知的生産の新しい未来に向かって進んでいくことができる。

**台湾ドルの上昇は業者泣かせ**

【2021-11-28 経済日報】

今年も台湾の工作機械輸出は新台湾ドルの上昇、原材料の高騰、輸送コストの高騰という3つの不利な要因に見舞われた。中でも為替レート上昇の影響が最も大きく、1-3月期の利益実績が想定を下回り、業界にとって大きな「心痛」となった。

世界の工作機械業界の景気が回復し、台湾の工作機械メーカーも今年に入ってから前月比で経営も良くなっている。しかし前3シーズンの状況は台湾ドルの上昇で予想外の結果となった。一方、主な部品工場は、市場の需要を反映した製品価格の上昇が続き収益は比較的良好だった。

アジア諸国の為替レートはこのところ下落が続いており、台湾はライバルの日本、韓国、中国に比べ最も下落幅が小さい。台湾機械工業会の魏燦文会長、程泰グループ楊徳華会長、和大グループ沈国忠会長らが政府に事態に目を向けるべきだと要請した。

**台湾工作機械生産高来年は２-３割増の見込み　更なる値上げの可能性も？**

【2021-12-02 中央社】

台湾工作機械業界の来年の見通しについて、台湾工作機械とパーツ工業会の許文憲理事長は次のように語った。「工作機械やパーツの受注は来年の第2シーズンまで見通しがついているものの円安が止まらない。台湾の工作機械部品メーカーが日本の顧客へ発注する際の価格はほとんどが日本円換算のため台湾メーカーには不利な条件となっている。しかも円安により日本の工作機械メーカーの輸出競争力が高まり、米国、欧州、東南アジア市場において台湾のメーカーを圧迫している。」

台湾工作機械業界の生産額は、今年は昨年に比べて30％の大幅な伸びを見せた。来年も供給と価格が安定すれば、生産額と輸出額は２から３割の伸びになると予測している。

原材料価格の動向について許文憲氏は「もう後戻りはできない」という。米中の技術戦争、COVID-19の流行、海上運賃の高騰などといった要因から今後3年間は原材料価格が高止まりすると予想される。

来年さらに工作機械製品の価格が上がるかどうかについては「原材料の価格が上がり続ければ業界もそれに対応してまた値上げをする可能性は否定できないが、市場の需給状況にもよる」と述べた。

**コロナ禍後、台湾最大規模の展覧会TIMTOS x TMTS 2022開催　業界の代表が支援**

【2021-12-02 経済日報】

対外貿易協会の黄志芳会長が台湾の2大工作機械ショーの初提携となる「2022台北国際工作機械展（TIMTOS）×台湾国際工作機械展（TMTS）」を来年2月21日から26日まで台北南港展覧館で開催することを発表した。新型コロナ以来台湾で最大の展示会であると同時に、世界工作機械産業の2022年初の最大イベントとなる。

当協会は、今年も台湾の工作機械産業の輸出が拡大・復活する雰囲気の中、「TIMTOS x TMTS 2022」はコロナ禍以来蓄積された業界のエネルギーを解き放ち、各業界の最新の設備調達ニーズを満足させられるだろうと強調した。

黃志芳氏はまた次のようにも語っている「台湾の柔軟かつ迅速な工作機械のサプライチェーンは、世界の産業チェーンの重要な一部となっている。台湾のコア技術を結集し、世界中のデバイスのエンドユーザーに最適なソリューションを提供したい。TIMTOS x TMTS合同展示会では台湾のスマートマニュファクチャリングのゴールデンラインナップを集結し、先端製造に向けた研究開発の成果をお届けできるでしょう。」

当協会は「台湾の機械産業は半導体産業とパネル産業に次ぐ第3のビリオン産業になった」という。 今年1月から10月までの台湾工作機械輸出累計金額は2020年同期比27.6％増と好調で、国際的なワクチン接種率の上昇や流行が一段落して需要が高まる中、台湾の工作機械の業績は今後も黒字で新記録を更新しそうだ。

**工作機械11月輸出額が2.8億米ドル近く47％増加**

【2021-12-08 中央社】

台湾工作機械とパーツ工業同業公会が本日、11月の台湾工作機械輸出金額が10月より４％成長し去年同期比47.6％増加したことを公表した。

今年1月から11月の台湾工作機械輸出累計金額は去年同期比29.5%成長した。

輸出市場に関して工作機械工業会は次のように説明する「今年１月から11月の台湾工作機械輸出トップ10は輸出金額順に中国（香港含む）、米国、トルコ、ロシア、タイ、インド、ベトナム、オランダ、イタリア、マレーシアだった。」

その中で中国大陸（香港含む）市場は台湾工作機械輸出市場の32.9％を占める。輸出金額は去年同期比23.3％成長した。2位の米国は輸出市場の11.7％を占め輸出額も前年同期比17.3％増となった。第3位はトルコ、全体の9％を占め、輸出額は前年同期比52.2％増となった。

**工作機械工業会許文憲氏「台湾工作機械は『5欠』に苦戦」**

【2021-12-16 経済日報】

台湾工作機械とパーツ工業会が本日、第5回第3回目の総会を開催した。許文憲会長は「コロナ禍後、各国の製造業は商機の機会が多くなり、今年海外からの工作機械の注文が土砂降りのように台湾に押し寄せている。しかし材料、労働力、船、水、ワクチンといった５つの不足の事態が発生し、『苦戦の一年に突入」してしまった」と述べた。

しかしながら許文憲氏は、協会の会員メーカーが「台湾牛」の精神で地に足をつけ真剣に経営に取り組んだ結果、今年の工作機械輸出も+30％と順調に目標達成したことを強調した。彼は為替レートや海運、原材料が安定すれば、来年も工作機械の輸出は成長し続けると考えている。

今後、工作機械業界はスマート化、デジタル化を目指し、労働ではなく頭で財を成すようになるだろう。機械ではなくノウハウを売るのだ。

許文憲氏は次のようにも強調している。「製造業は台湾経済の生命線であるから、今年は伝染病が発生しても製造業を止めるわけにはいかないと政府は主張している。伝染病を安定的にコントロールしたことで海外からの受注も多く、今後10年間の台湾製造業の成長を牽引するものと期待できる。」

**台湾産業持株会がチャンスを掴むよう呼びかける　産業国家チームの構築**

【2021-12-22 経済日報】

台湾産業持株会が今週、台北で第3回総会を開催し台湾がコロナ禍後の世界経済環境におけていかにチャンスを最大限に活用できるか、企業の国際化を突破する方法について議論した。

コロナ禍後、世界経済が回復すると同時に台湾の経済成長と疫病予防の有効性が世界的に注目されている。台湾経済研究院の張建一院長は、今後5〜10年の間に状況を好転させるために台湾には重要な役割があると考え、業界が取り組むべき以下3つの方向性を提言している。

一、グローバル産業がより重要な役割を担う：業界がリーダーシップを維持し、グローバルサプライチェーンの中心的な地位を獲得する。

二、統合された産業エコシステムの構築：例えば半導体などの製造チェーンなどだ。

三、競争力の強化：全ての産業チェーンをスマート化、デジタルトランスフォーメーション化しブランド力をつける。

張建一氏は、台湾企業がこの機会をうまく利用して中堅企業同士の提携やアライアンスを組むように、また今後の政策や課題の推進にあたっては、政策部門と産業界がコミュニケーションをとりながら融合していかなければならないと考えている。